

70歳まで働く社会

磯野波平さんは何歳か？

専務理事 樋 浩一

haji@nli-research.co.jp



はじ・こういち

東京大学理学部卒、同大学大学院理学系研究科修士課程修了。
81年経済企画庁(現内閣府)入庁。
92年ニッセイ基礎研究所、12年より現職。
主な著書に「日本経済の呪縛—日本を感わず金融資産という幻想」。

1——波平さんとフネさんは何歳？

まんがサザエさんが、朝日新聞で連載が始まったのは1951年のことだという。作者が亡くなった後もテレビでの放映が続いているので、今でも多くの人を楽しませている。しかし、サザエさんの父親である磯野波平さんが何歳か知らないかたも多いのではないだろうか。波平氏の趣味が盆栽・俳句・骨董品ということや外見から受ける印象から、筆者は、「波平氏は60代、フネさんも60近い」と思い込んでいた。

フジテレビのキャラクター紹介では、波平さんは54歳ということになっているのを知って、正直驚いた。父親の波平さんはもちろん、母親のフネさんも自分よりもかなり年上だと思っていたが、意外に年齢が若いのだ。55歳定年が普通だった時代のことなので、波平氏が定年直前という設定だから54歳というのは頷ける。

2——70歳まで働く社会

政府は、これまで15歳から65歳までを働く世代としていたものを、70歳までを働く社会を目指そうとしている。60歳以上の定年年齢が義務化されたのは1998年のことで、65歳までの就労もようやく定着し始めたばかりだ。厚生年金や国民年金を受給できる年齢が高くなっていくのは、ゴールがどんどん遠くなっていくようだという嘆き声も聞かれる。

1950年には20歳の男性の平均余命は45.3年だった。この時代に20歳で働き始めた男性の人生設計は、55歳まで35年間働き、65歳までの残りの約10年の老後生

活を年金と退職金で維持するというものだった。2012年には20歳男性の平均余命は60.36年となっている。昔のままの55歳定年だったら、35年間の貯蓄で80歳まで25年もの老後生活を賄う勘定になるが、これはどう考えても無理だ。年金制度の行き詰まりは、寿命が延びたということが最も大きな要因である。寿命が延びたのに応じて、より長期間働くことになるのは当然だ。

文部科学省の調査によれば、2012年の高齢者の体力を、それより15年ほど前の1998年時点の人達と比べると、5歳くらい若い人と同じ程度だという。半世紀以上前の1950年代に設定されたキャラクターである波平さんやフネさんが、年齢の割には老けて見えるのは、今の同年齢の人達がずっと若々しく健康で体力があるからだ。

人生を山登りに例えれば、年金生活に入るのは、ゴールの山頂ではなくて八合目くらいに相当するだろう。ゴールである平均寿命はずいぶん延びており、山頂の

標高はずっと高くなっている。昔に比べて我々の健康や体力ははるかに向上し、もっと高い山に登ろうとしているわけだ。ゴールの山頂が高い分だけ、働くのを止める八合目の位置が高くなるのは当然だ。山頂が65歳から80歳になったので、八合目も55歳から70歳になるというのは、当然のことだ。

平均寿命が長くなっただけでなく、栄養状態の改善や医療の進歩によって、普通の人々が健康で働いて生活できる期間が長くなっているのである。

3——人手不足経済の到来

65歳を超えて引退しつつある団塊の世代は各歳の人口が220万人程度であるのに対して、これから働き始める15歳の人口は120万人程度に過ぎない。

仕事の数が一定だとすると、単純計算では現在250万人程度の失業者は毎年100万人も減っていき、数年でゼロになってしまう。高齢者や女性にもっと働いてもらわないと、我々に必要なモノやサービスが供給できなくなってしまう計算になる。日本では、人手不足経済がすぐそこまでやってくるのだ。

人生の出発点は誰も似たようなものだが、40年ほどの職業生活を経れば、経済状況も健康状態も家庭の事情もそれぞれ大きく異ってくる。高齢者に働いてもらうには、それぞれの状況に応じた多様な働き方ができるようにするなど、様々な工夫が必要だ。企業の発展や生き残りには、どうやって女性や高齢者を活用するかという工夫が重要になってくるだろう。

日本の人口(2013年10月) 資料:総務省統計局「推計人口」

